

第 31 回 IEEE 関西支部 LMAG 現地技術講演会
(兼) 第 133 回 IEEE 関西支部 TPC 現地技術講演会
2025/11/25 記録
Report of 31st IEEE Kansai Section LMAG
On-site Technical Lecture Meeting,
133rd IEEE Kansai Section On-site Technical Lecture Meeting
LMAG 関西 事務局

講演会の概要 (Summary)

・ 講演テーマ (Title)

ロボティクスの新たな展開 ～人が心を感じるロボット～

New Horizons in Robotics: Robots That Touch the Human Heart

・ 講演者 (Lecturers)

美濃 導彦 氏

国立研究開発法人理化学研究所 情報統合本部 ガーディアンロボットプロジェクト
エクト プロジェクトディレクター

Dr. Michihiko Minoh

Project Director, Guardian Robot Project, Information R&D and Strategy
Headquarters, RIKEN

吉野 幸一郎 氏

東京科学大学 情報理工学院 准教授

国立研究開発法人理化学研究所 情報統合本部 ガーディアンロボットプロジェクト
エクト 知識獲得・対話研究チーム チームディレクター

Dr. Koichiro Yoshino

Associate Professor, School of Computing, Institute of Science Tokyo
Team Director, Knowledge Acquisition and Dialogue Research Team, Guardian
Robot Project, Information R&D and Strategy Headquarters, RIKEN

日時 (Date)

2025 年 11 月 25 日 (火) 14:30 – 16:45

場所 (Place)

理化学研究所 ガーディアンロボットプロジェクト (株)国際電気通信基礎技術
研究所内 1階 GRP 会議室
1F GRP Meeting Room, Advanced Telecommunications Research Institute
International (ATR), RIKEN Guardian Robot Project

主催 (Organizer)

IEEE Kansai Section Life Members Affinity Group
IEEE Kansai Section Technical Program Committee

参加者 (Participants)

80名 (会場参加者 22名、オンライン参加者 58名)
参加者の内、IEEE 会員は 65名、Life Member は 28名

プログラム (Program)

- 14:30 開会挨拶・紹介
- 14:35 講演 1：美濃氏によるご講演
「ガーディアンロボットプロジェクトが目指すところ」
- 15:05 講演 2：吉野氏によるご講演
「実世界で対話するロボットを目指して」
- 15:35 休憩
- 15:40 見学会
人に寄り添い、人をさりげなく支援する自立学習ロボットとの対話体験
- 16:40 閉会挨拶、お知らせ
- 17:15 懇親会 (希望者のみ)

概要 (Brief Report)

IEEE 関西支部 LMAG Chair の有木康雄氏より開会の挨拶と開催趣旨の説明が行われた。近年、生成 AI の進化によりロボティックスが新たな局面を迎えており、AI による自律的な判断や環境適応能力の向上により、人と共存し支援するロボットの可能性が飛躍的に広がっていることが述べられた。今回は、理化学研究所のガーディアンロボットプロジェクト (GRP) を見学させていただき、人の意図や状況を的確に把握し、適応的に行動する次世代ロボットの研究について紹介してもらうことが目的であると説明された。

その後、理化学研究所 情報統合本部 ガーディアンロボットプロジェクト プロジェクトディレクターの美濃導彦様より、「ガーディアンロボットプロジェクトが目指すところ」と題してご講演が行われた。プロジェクトは2019年度に開始され、人間と共に存できる一人称的な主体を持った自律的なロボットの構築を目指した。ロボット側に主体性があれば、シンボル・グラウンディングの「意味」が初めて生じるという考えが示された。プロジェクトで開発されたロボットとして、表情筋の動きを再現し13感情を表出する対話型ロボット Nikola、人の動作意図を読み取りほど良い手助けができる装着型ロボット Aetro、そして人と一緒に生活することを目指すパートナーロボットの Indy が紹介された。大阪・関西万博では、来場者がこれらのロボットとの対話体験を行う大規模な実証実験が行われた。

続いて、東京科学大学の准教授および理化学研究所のチームディレクターの吉野幸一郎様より、「実世界で対話するロボットを目指して」と題してご講演が行われた。人々は、対話的なインターフェースを通じて、ロボットが日々の生活を豊かにしてくれる期待している。実世界での対話においては、「何を話したか」だけでなく、「どういう状況で何を話したか」というコンテクストの理解が重要であると強調された。ロボットが会話にとって必要な情報を選ぶ「情報選択」のパートが重要であり、吉野氏のチームでは、シーケングラフを用いて、実世界で起きたイベント（何が変化したか）を認識する研究を進めている。

講演終了後、参加者は1階の講演会場（GRP会議室）から3階のロボット見学会場に移動し、3体の自立学習ロボット（Nikola、Aetro、Indy）とそれぞれ約5分間の対話を体験した。

懇親会（Optional Get-together）

15名の参加を得て、けいはんなプラザ内のBlue Benjamin Caféにて懇親会が行われました。ご講演いただいた美濃様、吉野様を囲んで楽しく有意義な歓談の場を持つことができました。

写真 (Photos)

	
有木 Chair によるご挨拶	美濃 導彦 氏によるご講演
	
吉野 幸一郎 氏によるご講演	集合写真
	
懇親会開始	懇親会終了